

# Book Review



## 新 PMTC 予防・メンテナンス・SPTのための プロケアテクニック

内山 茂・波多野映子 著



Reviewer

加藤正治 Shoji Kato  
(東京都・高輪歯科)

A4判, 130頁  
オールカラー  
定価(本体4,400円+税)  
医歯薬出版刊



プロフェッショナルケアにおいて最も大切なものは何か。本書「新 PMTC」は、われわれに患者に対する姿勢を教えてくれる一冊である。

PMTCという言葉は、今でこそプロケアの一つの手技として浸透しているが、1998年「PMTC」が出版された当時は、私自身、この新鮮な言葉の響きとともに手探りで予防に踏み出したことを記憶している。つづく「PMTC2」(2003年)は、多くの読者が手引き書として目を注ぎ、PMTCに取り組む医院が急増するきっかけとなった。そして、13年を経てこのたび新装改訂版として登場したのがこの「新 PMTC」である。初版からの基本コンセプトは本書にもしっかりと踏襲されているが、体裁が新しくなったことはもちろん、本文も大幅に見直しされている。手に取ると、これからプライマリーケアを担っていく歯科医院の姿を感じられるコンテンツへと加筆修正されていることがすぐにわかった。本書は、はじめて読まれる方には抵抗なくスッと読み進められ、また旧版の読者にとっても、自身の診療スタイルを振り返るきっかけとなる一冊に生まれ変わって

いる。

さて、本書は全6章で構成されているが、一貫して著者らの患者に寄り添い支える姿勢が伝わってくる。

第1章では、目指すべきプライマリーケアの姿とPMTCの果たすべき役割が示されており、自院の方向性を定めるうえで大変参考になる章である。

第2章は、ここ数年で認知されてきたSPT(Supportive Periodontal Therapy)について多くのページが割かれており、今回の改訂で最も加筆されている章である。「SPT」や「ケア」という言葉のもつ真の意味からじっくりと理解したい。特に「「予防」よりも「ケア」の発想を重視している」というくだりは印象深く、われわれが日々取り組もうとしていることは、実は予防ではなくケアなのだということに気づかされる。

第3章および第4章を分担執筆されている波多野氏は、PMTCにおいて「急がない、傷つけない、痛みを与えない」という三原則を提唱し実践されている。その豊富なケア実績をもとに解説される基本手技は、器材選択から歯面へのタッチまで詳述されており、

新しい製剤情報も追加されている。さらに、ケースごとに整理して提示されている臨症例は、チェアサイドで大いに役に立つであろう。

第5章は、実際に医院をまわしていくときに直面する現実的な悩みにQ&A形式で答えてくれる章である。患者と長く関わるコツが書かれており、本編とあわせて積極的に読み進めたい。

そして最終章である第6章は、医療人としての思いが如実に描かれた人間味あふれるエッセイで締めくくられている。われわれの経験不足や認識不足を著者自らの経験からフォローしてくれる、この最終章にも本書の魅力を感じる。

さらに、全編にわたり旧版から引き継がれている「ここに残る言葉」や「コラム」が本文の内容と絶妙なマッチングで随所に配されており、まるで講演会を聴講しているような構成に引き込まれてしまうことは間違いない。

わが国におけるPMTCを黎明期から牽引してこられた両氏から発せられる言葉には心に響くものが多く、ケア型診療に携わる諸氏に必読の書としてお勧めしたい。